



英国春秋

英国日本人会 20 年の軌跡

2017 年 秋号

I S S U E 31

J A 20 周年記念特集号

発行 英国日本人会

はじめに



豊穰の秋と綴れば心まで豊かになりそう・・・そんな気がしてなりません。やはり農耕民族のDNAが流れているのでしょう、農作物の収穫時は何につけ幸せな気分になれるから不思議です。

枝もたわわに実る林檎、熟す前の翡翠色のブドウ、今にも落ちてきそうで重たげな梨など、ここかしこに秋の実が一堂に“その調べ”を奏で出しました。

毎年、今時になりますと近くの森にブラックベリーを摘みに行くのを楽しみにしています。いつも食べきれないほど摘んでくるのですが、今回それは止めて必要な分だけにし、摘む回数を増やすことにしました。6・7月と暑い日が続いたせいか今年は大豊作で、当分は“おはぐろ”宜しく口中を黒く染め続けることでしょう。先日は我が家のリンゴとナシをワインでさっと煮て、摘んできたブラックベリーを添え、それに生クリームをかけて食したら、ミシュランゼロ星のデザートになりました。勿論、無農薬の有機栽培ですので、一つ星くらいかも・・・と一人で悦にしております。

『英国春秋』秋号No. 31が完成しました。今号は英国日本人会設立20周年の記念号でもあり、通常のエッセイや俳句・短歌に加え、その設立経緯や各部の紹介、20年の歴史をたどる活動状況を入れて、編集いたしました。一般投稿者の方々、又各部責任者の方々からの紹介文等で、大変お世話になりました。

秋号が済めば、次号春号と“鬼の笑い”を気かけながらも心は既に来年へ飛んでいます。引き続き皆様からのご支援を宜しくお願い致します。



* * * も く じ * * *

はじめに		2
夢と共に未来へ	佐野圭作	3
英国日本人会20年の軌跡		4
英国日本人会20年の軌跡・写真集		5
英国日本人会の発足、20年前の思い出	加藤節雄	6～7
英国日本人会20周年記念に寄せて	田村陽子	7
事務局の仕事について	事務局	8～9
人生は楽しく	同好会部	9
20年の歩みとこれから	福祉部	10～11
「二水会」の歩み	二水会部	11～12
ヘンドン日本人墓地	墓地管理部	13
紅葉会20年の動き	紅葉会部	14
「英国春秋」と共に	文集部	15
忘れな草プロジェクト	忘れな草部	16
TEAM SMILE と SKT88	広報部・TEAM SMILE 部	17
トラちゃん	ビドル恵	18～20
英国春秋歌壇 花の笑みたり	バロー典子	21
泥棒物語	小川のり子	22～23
英国春秋俳壇 秋灯	クーパー矩子	24
英国春秋俳壇 秋に寄せて	俳句同好会	25
英国春秋俳壇 夏帽子	エリオットつや子	26
故西内夏子先輩を偲んで	バロー典子	27～28
2017年・一期一会	渡邊道英	29～31



夢と共に未来へ――！

英国日本人会 会長 佐野圭作

皆様の英国日本人会が昨年 20 周年を迎えました。
1996 年に「相互扶助の目的」を持って創立されて以来多くの会員、理事役員、大使館他ご支援者の方々のお陰様で着実にその目的を果たして参りました。

戦前には企業社会中心の「日本クラブ」が古き英国のメンバーズクラブ同様にカヴェンディッシュスクエアに有りましたが、永住者向けには小泉軍司氏が中心になり「同胞会」と言う互助会がありました。現在のヘンドンにある“皇国同胞の墓”は正しくこの様な時期(1936 年)に建立されたものであります。小泉軍司氏は“英国柔道の生みの親”と崇められて、第二次大戦中多くの日本人が隔離される中でも英国人に大切にされたやに聞き及びます。



遡って 1860 年代には、多くの若き日本人(22 歳～26 歳)が訪英し、多くを学び明治の時代を築く基礎がこの英国から学ばれた事は大事な歴史の一齣です。長州ファイブ、薩摩 19 名のみならず、最初 12 歳で留学し 15 歳で再留学した菊池大麓(後の東大教授/総長、文部大臣)は、ケンブリッジ大学にて数学で首席であったと記憶され、他に数多くの若き日本人が当地で光り輝いたとも聞き及びます。

方や当初の目的を貧困と病の為に達せられず此処に没した若き日本人も多くあった訳です。亡くなった方々で長州藩の山崎小三郎(1865 年 22 歳没)他四名の墓地は、今でもロンドンから電車で南西 40 分の Brookwood Cemetery に有ります。

幕末、明治、大正、昭和、平成と時代が変遷する中で、日英の歴史は今日の日本の国家形成の過程で大きな影響を与えて来ました。我々が未来へと向って現在の英国永住者としてどうあるべきかを問う事は、大変意義深いことではないでしょうか？お互いが助けあい、英国社会とも交流を高めて益々の相互扶助と文化交流に邁進して行きたいと念じます。

日本国政府はロンドンにジャパンハウスの設立を計って居られます。我々も大いに期待して行きたいと存じます。永住者向けのコミュニティーセンターの希望も強くありますので今後の課題として夢を持って進めて参りましょう。

去る日英首脳会談での合意文書の中(15 条)に、我々英国日本人会理事会が決定し提唱している「英国に桜千本・万本植樹」の事がハッキリと明記されました。

英国への感謝を込め我々が英国と一体となって「日本人永住者の存在と夢」をより一層高めて行きたいものです。

最後に此れからの 20 年を元気で頑張って生きて参りましょう！！

感謝





- 1996年 11月『英国日本人会』発足（JRA）：初代会長 平久保正男就任
- 1997年 『二水会』発足（JRA 講演会部門として）
- 1998年 1月『紅葉会』発足、5月英国日本人会『ニューズ・レター』月刊発行、
6月ヘンドン墓地管理・維持を正式に開始、7月前田学園夏祭り参加
- 1999年 1月英国日本人会会則制定、3月文集『英国春秋』初刊号発行
- 2000年 7月前田学園夏祭り・JRAバザー出店
- 2001年 9月JRA写真展「英国の日本人 1863-2001」ロンドンで開催
- 2002年 1月以降写真展イギリスと日本各地で開催、7月キューガーデン園遊会
- 2003年 2月「写真展：昭和初期の情景」、10月ヘンドン同胞之墓慰霊祭
- 2004・5年 7月前田学園夏祭り・JRAバザー出店、11月新潟地震募金活動
- 2006年 10月英国日本人会10周年を記念してヘンドン日本人墓地にてベンチ寄贈式
11月ヘンドン同胞之墓70周年記念式典
- 2007年 10月ヘンドン墓地改修工事完了・石碑の落成式
- 2008年 3月「写真展：Human Bridge」（日英通商条約150周年記念）写真集発行・配布
7月ヘンドン墓地の所有権が英国日本人会に正式に譲渡される
- 2009年 1月英国日本人会2代目会長 佐野圭作就任
9月第一回ジャパン祭り（JRA共催）スピットルフィールドで開催
- 2010年 9月第二回ジャパン祭り参加・JAバザー出店
- 2011年 4月東日本大震災義捐金を日本大使館に届ける
6月東日本大震災追悼式（於：ウェストミンスター寺院）
- 2012年 1月英名 Japan Residents Association から Japan Association に変更(JRA→JA)
2月英国日本人会が正式にチャリティー団体として認可される
8・9月ロンドンオリンピック・パラリンピックJA応援団活躍
- 2013年 7月NALC・UK設立、9月「忘れな草」プロジェクト開始
- 2014年 6月「英国日本人会ジャパンハウス」設立基金募集開始
- 2015年 4月英国日本人会会長が旭日双光章を受章
- 2016年 3月熊本地震募金活動、7月ヘンドン日本人墓地建立80周年記念式典
（麻生副総理、鶴岡大使、佐野英国日本人会会長他参列、桜植樹）
9月JAガンジー支部設立、12月英国日本人会20周年記念式典（於：日本大使館）



英国日本人会 20 年の軌跡



2016 年 1 2 月 3 日英国日本人会設立 20 周年祝賀会



2012 年 8 月 ロンドン・オリンピックマラソン J A 応援団



2013 年 5 月 J A 花祭り (於: ハマー・スミス公園)



2001 年 1 月 27 日紅葉会新年会



1999 年 7 月 前田学園夏祭り J R A バザーテント



1999 年 サマーバスツアー

「英国日本人会」の発足、20 年前の思い出

加藤節雄

<1996 年 11 月 13 日>

1996 年 2 月 1 日号の「日英タイムズ」のビジネスマン近況欄にこんな記事が載った。戦後日英関係が修復され、外貨の自由化に伴い、企業の派遣でない日本人がイギリスに住みだしたのが 1960 年代後半から 70 年代にかけてで、その人たちも後 10 年もすれば停年を迎えることになるが、先行きを不安に思っている人も多いと聞く。



「こういうイギリスに根づいた日本人のためのアングロ・ジャパニーズ・クラブとも言うべき互助会のようなものが必要なのではないか」と言うのである。語っているのは佐野エージェンシー・グループ会長の佐野圭作氏である。

この記事を読んだやはり定住者の森田嘉久氏(JPS 社社長)が「日英タイムズ」7 月 18 日号に「論壇」として、次のような投稿をしている。「95 年度の領事館発表の英国における定住者数は 5200 人、前年より 30%も増加している。

しかし、定住者にはお互いに助け合受け合う受皿もないのが現状である。長い歴史を持つ日本クラブは定住者にも門戸を開放しているので、日本クラブに定住者の代表をもっと送り込み派遣者と定住者が協力できる日本人社会を作るのが先決ではないか」と言うのである。

当時私は「日英タイムズ」の編集長として、日本人社会の動向を取材していた。森田氏とはその後何回も会い、永住者の派遣員のニーズの違いから日本クラブとは別に定住者ネットワークが必要ということで一致していた。具体化するためにはもう少し同調者が必要ということで、在英生活がかなり長い人たちに声をかけた。ほとんどの人が趣旨に賛同してくれた。私と森田氏は互助会が必要という佐野氏を訪ね、3 人で具体案を相談した。



その年の 11 月 13 日午後 6 時にピカデリー・サーカスにある日本クラブ大会議室で英国に定住する日本人の懇親会が開かれた。集まったのは男女合わせて約 40 人、いずれも英国生活の長い人ばかりである。定住者会設立運動発起人の一人である森田氏の司会で、英国に永住する日本人のための互助組織の構想が話し合われた。

当時すでに英国には日本人学校や日本人のための医療センター、日本語の新聞、日本食品店や書店までなんでも揃っており、生活に必要なものは不自由しない。定住者の会はそういったインフラを作る運動をするというよりも、どちらかと言うと、定住者同士の親睦と助け合い、また、在英日本人定住者の高齢化対策ではないかという意見が強かった。懇親会はその場で会の正式名称を『英国日本人会』(The Japanese Residents Association in the UK)とし、会長に平久保正男氏(当時 77 歳)を選んで正式に発足した。

<皇国同胞会から英国日本人会へ>

長い日英関係の歴史の中で「英国日本人会」が発足した意義は大きい。旧知のことだが、戦前には英国には「皇国同胞会」という在英定住者日本人の組織が存在していた。英国男性と結婚した日本人女性や庭師、役者、工芸職人、旅館経営者、ジャーナリスト等がいたそうで、英国で亡くなった人も多く、ヘンドンには立派な共同墓地もある。

戦前にはこの同胞会と企業の派遣員を中心とした日本クラブが両立、日本クラブはロンドン中心地に立派なクラブハウスを所有していた。第 2 次大戦がはじまり、ほとんどの派遣員は帰国し、永住している人の多くは、マン島に設立された「日本人強制収容所」に収容された。ロンドンの日本クラブハウスは敵国財産として没収され、戦後も返還されないままになってしまった。

戦前の皇国同胞会は解消してしまったが、戦後になり、英国に戻った日本企業を中心に 1960 年に日本



クラブが再建されたとき、メンバーとして日本人定住者にも門戸を開く形で再建された。しかし、実際には当初永住していた日本人の数も少なく、実質的には会の運営は日本企業の派遣員が中心となっていた。現在でもこの傾向は変わらず、日本クラブの会員は派遣員がほとんどだし、クラブが運営する日本人学校や診療所を利用しているのはどちらかと言うと、日本企業の駐在員が多いようだ。

私自身 1970 年に渡英した「英国日本人会」の発起人の一人である。永住者であるとともに、現在は「日本クラブ」の理事も務めている。永住者と企業の派遣員はおのずからその生活様式やニーズも違う。それぞれの組織が役割分担をし、同じ日本人として共通な部分はシェアするというのが理想だと思っている。

英国日本人会が出来て 20 年、これからもますます発展していくことを祈ると同時に、英国に住む同じ日本人として「英国日本人会」と「日本クラブ」が協力し合い、車の両輪の様に英国における日本人社会を発展させていくことを望む。



英国日本人会 20 周年記念に寄せて

田村陽子

20 年ということは、人間でいうなら青春、真つ盛りということでしょうか。その通りです。英国日本人会は活気に満ちております。

私が英国日本人会に入ったのは、2006 年、主人が亡くなり遺灰を、主人の希望通りに、ヘンドンの日本人共同墓地に散灰していただいたことからです。色々お世話になった墓地担当の方々に大変感謝致しております。

その頃は、ピカデリーにある日本クラブが会場で、20 名余りの集まりであった。色々な分野でお仕事をされていた方々の集りは、とても話題が豊かで楽しかった。これまでは仕事と家庭と育児に忙しく余裕のない生活だったが、退職後、こうして月に一度集まって色々な方々の話を聞くことができるのは、本当に幸いなことでした。

それから“Walk の会”ができて、担当の方々が念入りに下見をして下さり、あちこちへ連れていって下さった。これまでは仕事場へ往復のみで、どこにも行ってませんでした。Walk のあとで、皆さんと共にするお茶の一時はまた格別でした。担当の方々ありがとうございました。

2017 年に今では会場は Tottenham Court Rd にある Bloomsbury 教会を会場として、毎回 40 名余が集まっている。各人が、持っているタレントを自由に提供できる英国日本人会です。

We are all in a same boat、ボートが沈まないように、人とのつながりを大切にして前進したいですネ。



Row, Row, Row your boat,
Gently down the stream,
Merrily, Merrily, Merrily, Merrily,
Life is but a dream.



事務局の仕事について

事務局

英国日本人会は在英日本大使館の在留邦人団体の三番目に掲げられています。法人登録無しの個人では一番人数の多い団体です。そこで事務局には色々な問い合わせや相談が UK 内だけで無く日本からもございます。

現在進行形の問い合わせは、某局テレビの人気番組「ガッテン」から「ジャムを料理に調味料として使っているイギリス料理を教えて欲しい」という難問であり、頭抱え調査中です。この手の質問は他局からも度々問い合わせがありました。その答えに対して日本の視聴者の反応が目につかびます。トーン高に「え〜〜え、ホント!!」

尋ね人は「親が危篤だが、xx はロンドンにどうも居るらしい」だけの情報で居所を聞かれた事がありました。もっとも連絡先が分かれば先方は聞いてこないですね。



学生からは UK 奨学金の相談、補習校のフォロー相談、英人弁護士から通訳依頼等々で、日本大使館をはじめ他の邦人団体より我が会の敷居が低く聞きやすいのでしょう。その都度お役に立てばと最善を尽くして対応しています。

事務局は会の中心的な理事会の運営を整える役目です。また会組織の広域に渡った重要な仕事です。理事会は組織トップで傘下に 13 の部門があります。事務局が全て活動の運営は出来ません。理事会で討議した後は、例えば会場探し・予約・経費支払等々を各部長に一任しております。しかし部長から依頼があれば一斉メールは事務局が流します。文面には各部問い合わせ先のアドレスを明記しているにも関わらず、事務局に返信が多いのは何故でしょうか。

例えば、「参加します」、「場所を詳しく教えて」、「何時に終わりますか？」などで、まるでなんでも屋のごとしで、「ヒャ〜あ？ そんなことまで〜知らんよ」と云いたくなります。

事務局の配信アドレスを一度抜いてみましたが、そのまま返信する方々があるので、メールは受信側に都合よく出来ています。便利なメールですが電話申込は、その点間違いがなく簡単、と皮肉です。

事務局の仕事をしていると、内外色々な方々とお話する機会が多く楽しいですが、しかし重責でもありストレスが増えることも多々あります。前黒澤事務局長は会報部長の二役を長い事やってくださり、当初には経理と重要な三役を一手にされていたそうです。しかも現役仕事をされながらの彼の労力は測りしれません。会が今あるのは彼のボランティア精神のお陰だと思います。自分が事務局にならなければ分かりませんでした。

事務局サポーターとして黒澤さんと一緒にした楽しい思い出仕事の一つは、2012 年ロンドンオリンピックのジャパンハウスです。有名アスリートや元猪瀬都知事とお会いして選手村にも行きました。こうしたお役得は時折あります。

事務局はヨーロッパ日本人協議会の連絡委員として、毎月一回ほどの夜スカイプ会議をし、又、隔年にはヨーロッパ大会をアレンジするようヨーロッパにも広がった役割です。私には一役の事務局でも重責過ぎ悩みましたが、出来ない事は出来ないと思腹をくくり、出来る事には誠意をもって臨みます。会員の要望を汲み組織が組織として動くようにお役にたてたら良いと思っております。



会員数の動向

1996 年 11 月開会時は 100 人程の、当時 50 代の日本人の方々が老後豊かな楽しい暮らしを考え、相互扶助を主な目的として発足しました。2012 年度に会費の安い E メール会員導入後から数が増え、最近ネット入会で更に会員数が増えております。

2001 年 133 人、2006 年 141 人、2007 年 165 人、2010 年 170 人

その後ゴールド会員（G）会費免除、E メール会員を導入

2012 年 10 月 247 人（E153, 一般 94 内 G9 を含む）、2013 年 10 月 270 人（E189, 一般 91 内 G11 を含む）

2014 年 10 月 285 人（E192, 一般 93 内 G12 を含む）、2015 年 10 月 292 人（E200, 一般 92 内 G12 を含む）

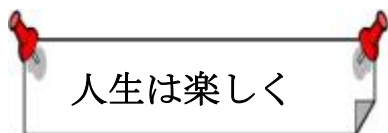
2016 年 10 月 304 人（E229, 一般 75 内 G17 を含む）

E プラス文集のみ郵送を導入、Web 入会導入

2017 年 8 月 341 人（E219, E+45, 一般 77 内 G16 を含む）

2017 年より一般会員入会廃止し E 会員のみの募集になりました。現在の一般会員は既得可、E から一般の移動不可になりました。現在のゴールド会員のうち 3 名がメール会員です。

（上田記）



同好会部

「皆なで楽しく過ごしましょう」がモットーの我々の同好会部。一人で楽しむより沢山の友達と一緒に楽しんだ方が何倍も楽しい。最初はウォークから始めて、その後 スケッチ、合唱カラオケ、スマホ/iPhone/iPad、映画鑑賞、俳句を学ぶ会、食べ歩き（隔月）、さらに最近はテニス、ゴルフと会が 9 つにもなった。皆さんの積極性が会をどんどん広げる。新たに一部で始まっている麻雀、ダンスも好きな人が沢山いるという具合なので、これからも新しい会が増える事だと思う。



年令の節目の還暦でドーンと変化が訪れる。古希でドッカーンになる。それからは個人差が大きいと思う。70 代で 認知症になる人もいれば 90 代になっても矍鑠とされている人もいる。どうせなら人様の世話にならないに越した事はない。精神的にはあまり変わらなくても、肉体的な老化は仕方がない。これにどう立ち向かうかだ、先ず外に出る、そして歩く、これが基本。好きな事をやって楽しみましょう。体を動かす、外をよく見る、考える、こういう事がどうしてもよくなる、これが老化のはじまりだ。この様な誰にでも起こり得る問題を無くす為、或いは遅らせる為に始めたのがこの会だった。先ずは健康維持、そして人生を楽しむ事、 還暦前後までは皆さん其々の“仕事”があった。やっとそれらの“仕事”から解放された“ご褒美”の時間だ。ここで人生の疲れがドッと出て病気にでもならない為にも ストレスを発散して元気で毎日を過ごしたい。

今まで興味は あっても出来なかった事に挑戦するのも良し、“昔取った杵柄”で再び頑張ってみるのも良い。現在活動している会は何処も皆さんを歓迎です。新たに作りたい場合は、とりあえず仲間を数人見つけて始めれば良い。定期的な会合以外では、春の花見、初夏のバラ見、ビュッフェのお食事会、楽しい企画はいつでも大歓迎。元気で楽しむ皆さんの会です。これからも大いに一緒に 盛り上げて行きましょう！

（竹内記）

20年の歩みとこれから

福祉部

「福祉」とは「しあわせや豊かさを意味する言葉で、すべての人に最低限の幸福と社会的支援を提供する理念」というのが一般的な定義です。会員制の組織内に設置された JA 福祉部の役割は、「すべての会員が幸福で安心な生活が営めるよう、組織的支援を提供すること」となりましょう。

「生きるとは、自分自身の人生に責任を持つことを意味する。人生とは与えられるものでなく、課された仕事である。生きることが困難であればあるほど人生を意味深いものにする可能性が高まる。例えば、運動選手や登山家がわざわざ困難を作り出して挑戦するのも、なるほどと頷ける。最後の息を引き取るときまで、人生を意味あるものにするのは、各人の生き様にかかっている。有限で一回きりの生だからこそ、時間を活かし、充実させることに重みがある。」という意味深い言葉を残したのは、強制収容所生還者で著名な精神医学者の VE フランクルです。求めるだけでは人生を完成できない、というニュアンスが読み取れます。「情けは人のためならず」という故事の方が日本人には馴染み深いかもしれません。どちらも求めるより、与える力を養う方が大切であるという教訓です。



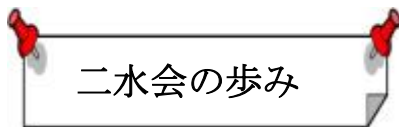
思いやりに満ちた心で活動をして来られた歴代の福祉部関係者たちは、組織をよりよい方向に導くという自負心があったため、心豊かで幸せな人たちばかりです。会員が豊かで自立した生活を送れるよう、「福祉」のありかたについて、純粋な気持ちで試行錯誤を重ねて来られた前任者たちの使命感は、今も脈々と生きています。20周年を機に、先輩たちの功績に対し、あらためて感謝と敬意を表します。現在の福祉部は、彼らによって敷かれた道の延長線上にあります。私たちは、更なる前進を目指し、次世代に継承するための布石を打つことの大切さを認識しつつ活動を続けています。世界的傾向である高齢化問題に伴う多様なニーズにも適切に対応すべく、会員に限定することなく、広く在英日系人の視点に立った福祉活動を推進するため、若手チームによる斬新なアイデアも大胆に採用するなどにより、組織的、体系的な活動に福祉部一同全力を挙げて取り組んで参ります。

(竹中記)

福祉部 20 年の経緯

1996 年	英国在住者間の相互扶助を目的とする英国日本人会（JRA）設立
1997 年	モモコ・ウィリアムズ初代福祉部長／福留国紘福祉担当理事を発起人として福祉部の前身である「楽しい老後のための懇親会」が発足
1998 年	葬儀費用積立プラン専門の Dignity と契約
1999 年	全英で 750 施設を運営する慈善団体 Abbeyfield 役員の喜谷昌代氏に在英日系人のためのケア施設設立を打診
2000 年	トミ・フリーボン氏が福祉厚生部を立ち上げて部長に就任。遺書作成キャンペーンに着手。園田理事のバックアップを得て、アルツハイマー症発症の A 会員の財務、医療などの諸問題を医師、銀行、ソーシャルワーカー、自治体などに対応しながら問題解決に当たる
2004 年	A 会員の Abbeyfield 系ケア施設への入居を説得。独居者で遺言状不在の A 会員の全資産が裁判所に移管。法定代理人指名等の手続きがフリーボン部長とフロスト紅葉会部長により開始される
2004 年	フリーボン理事退任に伴い、伊藤恵子元会員により、領事館との緊密な連絡を通じた福祉活動を目指す「エンジェル会」発足
2007 年	JRA 会員も参加して、日本の時間預託制度 NALC を英国で導入する可能性を目指したロンドン・ボランティアの会（LVK）が始動するも、需給の不均衡等の問題で解散

2008 年	JRA 発足と同時に、遠からずして高齢化問題に直面することを予測、福祉部の必要性を提唱した芙美子ファーガソン氏が福祉部長に就任。看護師の経験を生かし、独居者や病床にある会員への温もりあるケア、会員同士の親交と関係強化を強調する活動に従事
2010 年	ファーガソン部長の健康問題による辞任に伴い、竹中厚子が福祉部長を引継ぎ現在に至る
2012 年	会員数 300 名超の状況に対応するため、独居者や寝たきりなどの高齢会員への適切な対応策として、ロンドンと郊外を中心に、東西南北に地域分けした支部活動を導入。飛田まゆみ支部統括担当と各支部 2 名の責任者を中心に活動開始
2013 年	3 年間の準備期間を経て、NPO 法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ (NALC) の指導を受けて、福祉部を受け皿とする「NALC UK」を設立。会員リスト作成、ボランティア提供・要請他の時間預託システムが、若手会員のホワイトハウス／ナップ／丸山／山口の 4 コーディネータを中心に運営開始
2014 年	オックスフォード大で研究中の遠山桃山学院大教授と福祉部の共同プロジェクト「海外移住高齢者の意識調査」を 1 年間継続。結果報告セミナーが国際交流基金の助成を受けて開催
2015 年	S 会員の孤独死を機に、緊急連絡票提出を会員に要請
2016 年	高齢化が深刻さを増す状況を受け、エジンバラ大認知症研究所交流研究員兼キングスカレッジ老年学研究所客員研究員で福祉部／ナルク UK のアドバイザー役の Dr. 林真由美 Phd の指導の下、「高齢者見守りプロジェクト」に着手



二水会の歩み

二水会部

二水会は現在の英国日本人会の前身である英国永住者の会 (Japan Resident's Association JRA) が作られた当初より「二水会」と言う名称で講演会をオーガナイズしています。その活動内容は 20 年来変わることなく、ロングホリデーシーズンである 8 月と 12 月を除き、毎月第二水曜日に、日本と関係のある各界で活躍されている方々に日本語で講演して頂いています。

会の目的としては英国日本人会の会員の皆様に生涯学習の一助となればと思っております。また、当会は英国日本人会会員のみならず、一般の皆さまにも門戸を広げています。二水会の参加がキッカケで英国日本人会に加入される方もおられ、英国日本人会の広報活動の一端をも荷なっております。

今後も文化・経済・政治と幅広い分野での講演会を開催して、英国におられる方々のお役に立てるように会を運営して行きたいと思っております。

(宮村記)

2014 年

	講師(敬称 略)		演題
7 月	夢城えれん	元宝塚歌劇団星組	宝塚歌劇の魅力
9 月	佐野圭作	英国日本人会会長	ジャパンハウス設立の趣旨説明
10 月	藪原秀樹	(株)わもん 代表取締役	日本人の聞く力を深める
11 月	嶋 一哉	自治体国際化協会ロンドン事務所所長	メイヤー＝市長？～日本と英国の地方自治の違い

2015 年

	講師(敬称 略)		演題
1 月	新藤 政史	日本経済新聞社 欧州編集総局長	アベノミクス再起動 ～ 2015年の世界経済を読む
2 月	華岡 博之	在英日本国大使館医務官	健康で幸せに海外生活を送るには・・・
3 月	田中里佳	直傳靈氣大師範・ホリスティックセラピスト	自分も家族も気軽に免疫力アップ! 心と身体を癒すレイキ療法とは?』
4 月	山野 敦子	和みキッチン主宰	英国でからだに優しい食生活 - 在英邦人がおさえてほしいポイント
5 月	多田 充利	全農インターナショナル 欧州代表取締役	牛肉輸出における欧州の状況について
6 月	中田 浩一郎	弁護士	暮らしの法律相談
7 月	石山 智恵	キャスター・ライター	自分らしく生きる 女性たちの生き方
9 月	橋本貴裕	臨床心理士	ストレス時の自分の癖を知る ～認知療法・認知行動療法の視点から～
10 月	ドゥルリー和枝	ファイナンシャルプランナー	英国年金の仕組み
11 月	津坂雅淑	バンビーニ ナーサリー 保育園/幼稚園 取締役	ちょっとした意識転換で自己肯定感を養う ～ そのヒントはイギリスの乳幼児からの人づくりにあった

2016 年

	講師(敬称 略)		演題
1 月	南 武志	時事通信ロンドン支局長	日本人からみたアラブとイスラエル
2 月	北川敬三	在英国日本国大使館防衛駐在官	米国のアナポリス式リーダー教育
3 月	鈴木ナオミ	歌手	エンターテインメントからの復興支援と芸能界の舞台裏
4 月	濱野 英太郎	鍼灸師・気功インストラクター	氣・流れる身体ー鍼灸と気功から見た健康の秘訣について
5 月	廣田 丈自	マルチミュージシャン	『新 日本民謡 考察』
6 月	八多義徳	JR 東海ロンドン事務所 長	『夢の超・超特急』～ リニアモーターカーが世界を変える』
7 月	橋本美弥子	パーヒュームスタイリスト	「フレグランストーク」香水と音楽の共有する世界
9 月	池田 訓之	和装館 代表	『着物に流れる和のこころ』
10 月	川上 喜三郎	建築家・彫刻家	『川上喜三郎の作品紹介』
11 月	Keith Kelly	自治体国際化協会ロンドン事務所 職員	『日本と英国の草の根交流のサポート』

2017 年

	講師(敬称 略)		演題
1 月	佐野 純	フジテレビロンドン特派員・元米国ワシントン特派員	『 アメリカ大統領選挙について 』
2 月	加藤 大志	服部天神宮権禰宜として奉職	「グローバル化と神道」～ 如何にして英語で説明するか
3 月	佐藤宜之	チャタムハウス客員研究員	「英国にいとわからない BREXIT の真実」
4 月	赤松 憲光	日本郵政 豪華客船「飛鳥」元副船長	クルーズ客船～船旅の魅力
5 月	Matthews 雅子	ヨガインストラクター	自分を知る旅に出よう ～ シンキングボウル+歌ヨガ
6 月	山本 亜紀	絵画修復師	「絵画の秘密 絵画修復師から見えるもの」
7 月	坂本 純子	立命館英国事務所代表	日本の新大学事情 (立命館アジア太平洋大学 in 大分の取組)



左 2014 年 7 月
夢城えれん氏
(元宝塚ジェンヌ)



右 2016 年 2 月
北川敬三氏
(在英日本大使館
防衛駐在官)

ヘンドン日本人墓地

墓地管理部

大正初期 200 名ほどの在英日本人によって第一次世界大戦終了後、失業し困窮者が増加したのを救済する目的で小泉軍治氏を中心となり同胞共済会が出来る。

1919 年 同胞共済会によってこのヘンドンパークに 20 坪ほどの土地を借用して日本人墓地の準備がされる

1933 年 5 月 同胞共済会は同胞会として正式に松山総領事を名誉会長で発足

1935 年 9 月 同胞会による日本人墓地建設に着手。植木 81 本と日本式築山、大阪市役所の幹旋で石碑と燈籠 2 個を発注し日本郵船の厚志によってロンドンまで運ばれた

1936 年 8 月 墓地完成。10 月に日本大使館より吉田茂大使、ローカルの貴賓を迎え同胞会墓地完成除幕式が行われた

1937 年 2 月 第 2 次世界大戦を通して同胞会のメンバーは減少し、残った会員が高齢化して行く中、1957 年に総領事館は同胞会とトラストを設けて維持管理に当たってきたが、Fund も尽きて領事館がその維持にあたって来た

1963 年 同胞会は解散

1996 年 歴史は繰り返される如く、日本経済のバブルが弾けた後、失業者が増え在英日本人同士が助け合い、親睦をはかる為の組織の必要性が高まる

英国日本人会の設立に伴い会のボランティアが春と秋に墓地の清掃作業を開始する

1998 年 7 月 Barnet Council Hendon Park Cemetery は持ち主不在となったこの墓地の所有権を英国日本人会に依頼し、英国日本人会 (Japanese Resident Association in the UK) はこれを承諾し現在に到る

2003 年 10 月 同胞之墓慰霊祭が行われる

2006 年 11 月 同胞会墓地完成 70 周年と英国日本人会設立 10 慰霊祭、匿名の会員より記念ベンチ寄贈

2007 年 10 月 数年前から手がけられていた墓地の修復工事、並びに撒灰箇所の設置等終了し英国日本人会の石碑落成式が行われた。石碑には「この地に生き、この地に眠る」と標記された

2008 年 3 月 平久保正雄 (O, B, E,) 初代の日本人会会長が他界された [3 月 4 日命日]

2010 年 初代の会長故平久保氏を偲び会員よりメモリアル、ベンチ献納式が行われる

2012 年 2 月 ヘンドン事務所より手紙が届き、現在までローカル、カンセルの下に墓地は運営されて来たが、今後、プライベートの会社が半分所有する。その為、日本人墓地のリース、オーナーシップの書類を提出する必要。リースにつき明確な書類がない為、この時点より日本人墓地のリースにつき調べを始める

2012 年 8 月 ヘンドン Crematorium & Cemetery 事務所に Greave Transform の名義を Japanese Resident Association より Japan Association in the UK に変更登録書提出。

2014 年 約 1 年半程掛け、Abney Park Cemetery, Hackney Archives, Hendon Archives 等調べ廻った結果、幸いに探し出せた (Certificate of Right of Burial (Perpetuity) が記録されているコピーを ヘンドン事務所に届け出る

2016 年 3 月末、右側のメモリアル、ボードが強風、嵐で倒れる。7 月の末、80 周年記念式典が予定されていた為、墓地の整理、調節、剪定、修理等、時間に追われ明け暮れる。

2016 年 7 月 30 日 (土) 訪英された麻生副総理、在英国日本国大使館、日本企業関連、J, A 会員、友人、大勢の参列者を迎え同胞会墓地完成 80 周年目を迎えた記念式典

2017 年 8 月 先達同胞会の遺産ともいえるべき、このヘンドン日本人墓地を 英国日本人会は在英国日本国大使館のご支援、ご協力を得ながら末永く管理、保存して行きます。(藤田記)



紅葉会20年の動き

紅葉会部

紅葉会は、英国日本人会が発足した1996年の1年後、1997年に始まります。

日本人会発足時の集会は、「二水会」から始まりましたが、「二水会」は夜、6時半から行われ、女性、年配者の出席が難しかったため、「二水会」に匹敵する昼間の会があつてはとの提案から、「紅葉会」ができました。

立ち上げ時の目的は、「同好、趣味など同じくする者が其々の活動、話し合い等を通じて親睦を図り、楽しい老後の為に会員相互の理解、啓蒙、福祉、扶助を促進する」ものでした。

当時の申し合わせは

- 会の活動を通じて得た他会員のプライバシーに関する情報を流用せぬことを厳守。
- 会の運営に関する問題には常にフェアプレイの精神と善意に基づいた話し合いで解決するよう出来る限りの努力を怠らない。
- 会員は政治、宗教、及び営利を目的とした物を含む情報を会員間で同意した指定の方法で会員に提供することが出来る。但し、提・受供者間コンタクトのイニシアティブは受供者側からのみとする。

という事でした。また集会についても、当初から12月と8月を除く毎月第四木曜

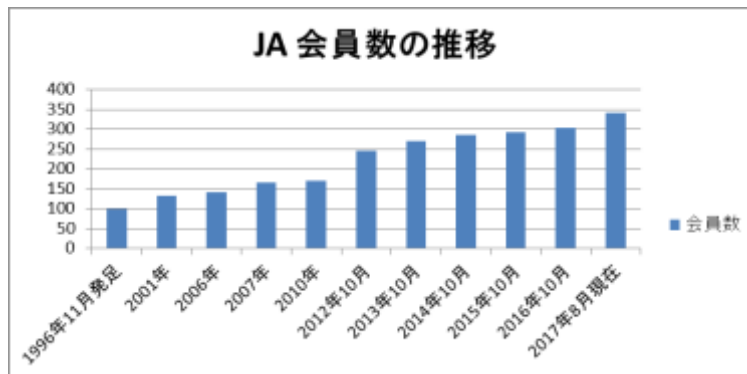
日とあり、集会の日については19年後の今もその通りに守られています。ちなみに当時の参加費は2ポンド50でした（現在会員は4ポンド）。

「紅葉会」という名称の由来は、12種類の名称の提案があり、ノミネートされたリストから、翌年、1998年の1月の例会で、出席者35名の投票により、太田シャーン明美さん提案の「紅葉会」という名称が15票の最大投票数を得て決定されました。太田さんはこの名称の提案として、「紅葉が美しく紅葉するように私の会も素晴らしい会に発展するようにとの気持ちを込められた」ということでした。この会は英国にて老後を迎えるにあたり、お互いに助け合い、親睦をはかり楽しく安心した老後の生活を目標に全国的な規模でネットワークを作りたいというのが目的で、20年後の現在は会員各員の親睦、趣味も兼ね、6-7の同好会が発足しています。当時福祉関係も紅葉会の一環でしたが、日本人として英国では初めての看護婦さんでいらしたファーガソンさんの提案で、福祉部が紅葉会から独立して設けられました。

20年前に50代を中心に発足したこの会も、会員はそのまま歳を重ね、今では70代になってしまっています。20年前、50代で老後の事を考えた私たちは今でも紅葉会を楽しんでいますが、20年前とは違い、今は60代でも仕事をバリバリやれる時代となり、若年層には昼間の集会に出席は難しいのではと思いますが、紅葉会出席者の高齢化に伴い、少しでも若い方々にも紅葉会に参加してもらえたらと思う昨今です。

最後になりましたが、現在の紅葉会の活動は、一部、二部とあり、一部は英国日本人会の各部の報告、会員に適用する一般の話題、参加者全員で歌を歌いラジオ体操をしています。二部では文学、法律、健康、食物、美術、音楽等多方面に渡りその専門の方々に講演をいただいています。今も美しく色づいてきた「紅葉会」が今後益々、美しくなることを祈ります。

(ウインター記)



英国春秋と共に

文 集 部

昨年11月で英国日本人会が満20歳の誕生日を迎えましたが、文集『英国春秋』はそれより2年と少々遅れで17歳、今、まさに輝かしき青春期を謳歌しています。

当初は4季ごとに発行のクォーターリーから、その後、スポンサー中止、原稿不足などの諸事情により、春と秋発行のハーフ・イヤリーに変更。そして2年強の休刊を余儀なくされたとは言え、それでもお陰様で昨年の秋をもちまして号数30号を重ねることが出来ました。



今、手元にある1999年初刊春号を紐解いてみますと、紅葉会の新年会で写したグループ写真が掲載されていました。その中にはもう逝ってしまった方々、退会された方々、そして今なお現役で活躍されている方々が見られ、みんなのその“若い容姿”に驚くばかり。17年の歳月が一瞬にして消滅、まざまざと当時の思いが甦って来るようでした。その他、「ドイツ軍捕虜になった英国籍の日本人」とタイトルからして興味深そうな随筆あり、「頭の体操、ウイット翻訳」とユーモアにあふれたエッセイありで、決して多くとは言えない10ページには種々の記事満載。またその編集後記には編集者のお一人、Mさんの「・・・やっど、『英国春秋』の創刊発行に漕ぎ着けられました。・・・私には宝くじに当たるより嬉しい出来事です。・・・」とあるのがとても印象的でした。

その後、2007年秋号(No. 14)でひとまず休刊。理事会では廃刊の話も出ましたが、せっかくスタートした文集なのという事で、2009年秋号(No. 15)で復刊、現在に至っています。引き継ぎ当初は文章編集用のソフトもなく、勝手も分からず、ワードを使用していた試行錯誤。イラストや写真の挿入がうまくゆかず、突然消滅してしまった画面に慌てふためき、春と秋はPCの前にかじりついている時間が一段と長くなってしまうのが常でした。しかし一番大変だったのはその印刷で、3年前まではJAの事務局でプリントをしていましたので、Kさんには人一倍ご苦勞をおかけしました。その他、手書き原稿のワードへの変換、刷り上がったプリントを1冊の文集にまとめたり、会員への郵送などをお手伝いして頂いた方々、そして何と言っても大切な文集本体への投稿者の方々等、それらなくして『英国春秋』は存在できなかったことでしょう。紙面を借りてここに改めてお礼を申し上げます。

懐かしさに駆られ、過去の文集から2～3、エッセイの断片を拾い出してみました。

(小川記)

「ロンドンまでの長い道」(1999年、No. 2) 平久保正男

・・・航空機も兵器も弾薬もなく医療品も衛生材料も、食糧すらもない不慣れ、常時マラリア、アミーバー赤痢、脚気、栄養失調に苛まれ続けたこと。百メートルの断崖を落下して死ななかったり、伝令が次々と6人死んで私は無傷だったこと、・・・、かつての敵国イギリスにすむことになるとは、想像できない私であった。・・・



「老後は何処で」(1999年、No. 2) 園田邦夫

・・・光陰矢の如し。いつの間にか人生の三分の二を外国でくらしてしまった。・・・日本にかえるか、子供達が居るアメリカに行くか？私達には、住めば住むほどイギリスが一番居心地がよいようだ。

「ロンドンパブリックトランスポートでの経験」(2006年、No. 13) 久我篁子

鉄道駅のプラットフォームで隣に座って来た女の子、ベンチの背凭れの上に尻を置き土足を座席の上に。私の買い物袋にヒールの金絡羅があたりました。

“You are supposed to sit on the seat not on the back” 数秒沈黙。“Shut your Chinky face”

印度・パキスタン風の綺麗な女の子の赤い唇から出た言葉でした。むかついた私は立ち上がって次のベンチに移りました。仮にも、“You, Paki uneducated git”等言い返すのは、はしたないことですし、人種差別法に触れかねません。それにこれが男の子だったら注意する勇気はなかったことでしょうか。



忘れな草部

第2次大戦後の英国における日本人社会

1960年代、日本は経済成長、政治の安定、オリンピックの成功等で、国際社会への復帰を実現しました。それと同時に海外旅行の自由化、パスポートの申請条件緩和、海外持ち出しドル枠拡大等で、海外へ出る人が増え、戦時中一時途絶えていた日本人の英国への旅行者も次第に増え続けて来ました。

60年代から70年代にかけて、英国人と結婚をした日本人女性、単独で英国に渡航してきた若者、企業派遣で来たものの、英国が気に入り会社を辞職して英国に定住した人、レストランやギフト店等の日本人向けのサービス産業等を始めた人等を中心に、徐々にではありますが、日本から派遣されたビジネスマン、学生、研究者とは別に、永住者による日本人社会が形成されて来ました。現在、英国における永住者は16,000人を数えています。しかし、第2次世界大戦後、英国における日本人社会の創成期を形成した日本人も高齢化が進み、中には高齢により亡くなる方も出てきています。個人の歴史はその人が逝かれたら失われてしまいます。

こういった創成期を形成した方々の声を集め、戦後日本人社会の歴史を記録することは、現世代から将来の世代へ伝える貴重な歴史的資料になると思われます。

「忘れな草」プロジェクトは、2013年秋より在英日本人永住者を中心とした「英国日本人会」(The Japan Association)が、1950年代後半から60年代、70年代にかけて英国における日本人社会を形成した人々にビデオ・インタビューし、日本、ましてや英国の歴史に残らない貴重な証言を映像で記録するプロジェクトです。

インタビューされた方々のお話は貴重な歴史的資料として次世代へ受け継がれるよう、記録保管用のロング版とネットで紹介するショート版の2種類を編集し、最終的には英国日本人会(JA)に保存されるだけでなく、日本大使館図書館、ジャパン・ソサエティ図書館、大英図書館、日本学科を有する英国の大学図書館等で永久保存されることを計画しています。

(ウィリアムズ記)

「忘れな草プロジェクト」実行委員会

プロジェクト主催者： 英国日本人会(会長：佐野圭作)
プロジェクト実行委員会： モモコ・ウィリアムズ／加藤節雄／花岡高明
プロジェクト・アドバイザー： 伊藤恵子



制作チーム

主任： モモコ・ウィリアムズ
撮影： 安田和代
編集： 武田真波、田宮菜穂子
英文字幕： 岡田須美子
IT コンサルタント： 黒澤泉
ウェブサイト： 石田勉

支援

在英日本大使館
The Great Britain Sasakawa Foundation
The Japan Society

Team Smile と SKT88

広報部・TEAM SMILE 部

英国日本人会に初めて参加したのは12年ほど前、紅葉会で、ピアノの人と一緒に歌を歌わせて頂いた時でした。このように日本人同士助け合う「日本人の憩いの場」があることに大変驚いた事を覚えています。

あれから12年後の今、英国日本人会の青年部として「TEAM SMILE」を作らせて頂くとは夢にも思っていませんでした。「英国の中でこれまで力強く生きてこられた英国日本人会の創設世代の先輩方、そこからの繋がりでご入会された先輩方、そして次世代の皆さんが一つになれるイベントを開催できないか？」

世代を超えた交流から助け合いへと繋げることはできないか？」という思いから始まり開催したのが『SKT88』です。



Sはシニア、Kはキッズ、Tはトゥゲザー、88は拍手のパチパチの略ですが、日本の人気アイドルグループAKB48をもじったという事は言うまでもありません。SKT88は歌や踊り、お話などを通じて、子供達とシニアの方々と一緒に日本の文化に触れあう会です。このイベントを通じ、「外国に住む子供たちに日本の伝統や文化を伝え、愛を注いであげたい」と、多くのシニアの皆さんが参加してくださるようになりました。今では、お母さんが日本以外の国籍の方のご家族も参加されています。子供たちの成長に驚きながら、2年間開催する中で、ご参加のシニアの皆さんからは「元気をもらった」と感想を頂き、このような機会を与えて頂いた私自身もまた元気を沢山頂きました。TEAM SMILEの他の活動としては、頑張る女性を応援する会「ジャンヌダルクの会」などを不定期で開催しています。



広報部の活動としましては、WEBサイトを新しくし、各部の活動報告などを行っています。WEB入会も増えてきましたので、広告なども加え、更に実用的なWEBサイトへと整備して参りたいと思います。コミュニティーのさらなる活性化を目指し、また次世代の日本人社会との架け橋の役目を果たす事ができるよう、そして皆様のお役に立てるよう、これからも頑張っていきたいと思います！

英国日本人会の20年後、50年後、100年後に思いを馳せて。

(鈴木記)

英国日本人会の部門

事務局、経理部、会員部、広報部、会報部、文集部、福祉部（ナルク）
特別イベント部、墓地管理部、二水会部、紅葉会部、同好会部（*）
都道府県会部、忘れな草部、Team Smile 部、法務部（準備中）

*同好会部 （歩く会、カラオケ会、スマホ/iPhone/iPad 会
スケッチ会、映画鑑賞会、俳句同好会、食べ歩きの会、
ゴルフ同好会、テニス同好会）

トラちゃん

ビドル 恵

我が家を住処にしている、雄猫トラちゃんに最初に会ったのは、愛犬ハナコが逝って二年近く経った頃だから、今からもう六年前の事である。

ハナコは家の庭に入ってくる近所の猫とかキツネ、タヌキ（バジャー）の類を追い散らす事を、生き甲斐にしていたから、彼女のいた頃は、本当に猫の子一匹見かけなかったものだ。それが、彼女が逝って一年ぐらい経った頃から、「あの庭はもう安全だ」という情報が動物たちの間で広まったらしく、裏庭の小さな瓢箪池（金魚を泳がせている）の周りに座り込んでいる猫とか、真昼間でも堂々と庭を横切って行くキツネの姿などを見かけるようになった。

そして、翌年の春になって近所の住民が入れ替わると、新顔の仔猫（一年子）達が、金魚に餌を与えている私の側に「こんにちわっ」と寄って来てくれた。

鈴の付いた水色の首輪をつけて貰っている、白地にグレーと黒の縞柄があっちこちに飛んでいる子とか、少々人見知り気味だけれど、黄緑色の首輪をした一番やんちゃな真っ黒い子。キジ虎で愛想の良い小柄な女の子や、白い足袋を履いた赤トラ、白黒の斑など、一日に五、六匹の仔猫が集まって来るようになった。皆まだ子供っぽくて遊び好き、すぐに仲良しになりコロコロと走り回って愛らしい。おかげで私は随分とハナコのいない寂しさを紛らわせては貰えたけれど、そのお返しに、ウッドチップを敷いてある庭木の根元が、コミニュアル・トイレットにされてしまい、ウンチ拾いが日課となったのには閉口した。



この頃、この仔猫達とは別に、戸口に座り込んで「入れてくれっ」とばかりにニャアニャア鳴いて廻る、黒っぽくて大柄なトラ猫が近所に出没していた。ちょっとでも油断すると、ダッと家の中に走りこんで来かねない様子なので「困るわね〜、何処の猫でしょう」といった噂で持ちきりだった。

そして一月もしない内に、池の周りに集まって来る仔猫達の中に、このトラ猫（後に我家の猫になる）が混じっているのに気付いたのである。彼は、下顎の白とお腹の薄茶色を除いた体全体が、灰茶に黒のサバ模様（点々縞）手脚の裏側とか背は殆んど黒、頭は他の仔猫達と同じくらいだったけれど、体はひと回り大きかった。目は緑色で鋭く、それが上目遣いに私をじーっと見つめる様は「もんくあつか？」とでも言っているようで怖かった。その上去勢されて無いか、股間には玉々がちゃんとぶら下がっており、飼猫というより野良猫といった方がピッタリの風貌だった。

その陰険そうな顔つきとデカイ体の割に、トラは他の仔猫達と年も同じくらいらしく、一緒に混じって遊んでいるが、何処となくトロい（引っ込み思案？）。池の金魚を覗き込むのは一番後だし、斜めに伸びている林檎の木の方へ、わーっと走って行き、木登り競争が始まるのにも常に一步遅れる。皆が木登りに飽きて次の遊びに移動する頃、トラは漸く登り始めて（順番待ちして居た？）一匹だけ取り残され、今度は降りるのが怖くなって、フニャ〜ッと鳴くドジな奴であった。

秋になって仔猫達も暖かいお家にいる方が良くなったのだろう、次第に姿を見せることが少なくなり、最後まで池の周りに残って、金魚の餌を「くれっ」と寄って来たのがこのトラだった。「これは金魚の餌よ、こんなもの欲しいの？」と餌の入った缶を見せてあげると、トラは猛然と鼻先を突っ込み、ガツガツと食べ始めるではないか。その時に私は改めてトラをじっくり見たのだが、黒サバ模様の毛は艶もなく、尻尾も体の割に短くて細い。背骨や骨盤、大腿骨と、毛の上からでも見分けられる程痩せ細っていた。

他の子は、遊び疲れば自分のお家に帰って行くのに、トラは帰る家が無いのか、帰れないのか、或いは帰りたくないのか、近所を徘徊し続けた半年の内に、随分とショボくれた姿になってしまったのである。

「あんた、帰る家無いの？」と優しく声をかけ撫でてやろうとすると、ササッと後ずさりして強い目で

キッと睨み、「触られるの嫌なんだよっ」と言っているのが伝わって来る。「ふんっ、可愛く無い奴だ」と思ったが、毎日池の周りに現れて、私に止められるまで金魚の餌を食べて行くのであった。

そして、トラはすごく臆病だった。キツネやタヌキに常にビクビクし、子供には絶対に近寄らず、男の人は死ぬ程恐くて嫌いだった。特にゴミ回収の作業員が立てる音にはひどく怯え、身体中の毛がパッと総毛立つ様は、見ていて気の毒だったけれど吹笑ものだった。あれ程近所の戸口を鳴いて廻っていたのも、諦めたのかピタリと止み、他の猫とも遊ばなくなったし、去勢されて無いので雄猫として野生化するのも早く、人間に愛想を振りまく気も失せてしまったに違いないと思った。



猫好きで、お宅に数匹（隣の猫一匹含む）飼っている、ベイリー・まゆみさんに、この猫の話をする上「金魚の餌では可哀そう、せめてドライで良いから、猫用のフードをあげてみたら」とのお言葉。その上「雨の日や、寒い夜はどうしているのかしらねえ」と心配されたので、早速猫用のドライフードとカリカリのオヤツを購入。裏庭に二つある物置の小さい方を空にして、ダンボール箱に古いタオルやセーターを入れた寝床も作ってやった。

金魚の餌から、ちゃんとした猫用のフードに変わってトラは余っ程嬉しかったのか、私の姿を見れば、すぐ側に寄って来て（相変わらずの怖い顔で）ちょっとなら触らせてくれるし、寝床も気に入ったらしく、時折りほわっと大あくびをしながら物置から出てくるところも、見かけるようになった。

後で分かったことだが、トラはやはり根負けした隣の小母さんに、毎晩人間用のツナ缶を分けていただき、昼は家の物置で眠って、私からドライフードを貰うといった、野良猫から外猫の暮らしに変わっていたのである。少しづつだが、トラの毛並みは元に戻り元気そうになってきた。

こうなると可愛さが勝って、家猫になるのは時間の問題～。と言っても、トラは夫が怖かったので慣れるのに更に一年を要したが、お隣が引っ越しする事になったのを期に、正式に我が家の猫にすると決めた。獣医さんに連れて行き、マイクロチップの有無を確認して貰ってから、家の猫として登録。予防注射に虫下し、歯垢の掃除とスポットのノミ取りも済ませた。その時に調べて貰ったら、股間の玉は袋だけで中身は空との事、トラはちゃんと去勢された飼猫だった事が分かった。余程居心地の悪い家だったのか、トラは二年近くも近所をウロついて居たのに、気にもとめられず、“Missing”のポスターも探しているという話も、一切無かったのである。

さて、私達にとって初めての飼猫となったトラちゃん（ちゃんが付きました!）は、徐々に家の中で寝る事に慣れ、顔付きもいくらか柔和になって（私達を見る時は、ちゃんと目を細めて、ユックリ両目ウインクする）きたが、性格はいかにも男の子っぽくキツくて乱暴だった。

相変わらず外へ頻繁に出て行き、その度に巨大なドブネズミを捕まえて来るし（まだ生きてる奴を家の中で放すか!?!）、雨の日が続くと体力を持て余し、三階建ての家を上から下まで、もの凄い勢いで走り回った。トラ猫の特徴であるアンブッシュ系の遊び（物陰やドアの後ろに隠れていきなり襲いかかる）が大好きだし、幸いかな他の猫が居ないので、家の中でのスプレー行為だけは免れているが、モコモコのクッションを女の子に見立てて **Mount** はするわ、所構わずゲロゲロ〜と毛玉は吐くわ、気がつかない内にソファには爪を立てられているわ、と猫を飼うしんどさを思い知らされる毎日になった。



その上、ゴロゴロいって撫でさせていたのに、気が変わるとその手にいきなりバツと掴みかかり、ガツプリと噛みついて来るのには本当に参った。「私ね〜、今まで一度も犬に噛まれたこと無いのに、何で猫に噛まれるの?」と傷だらけの日が続き、私も「このままではいかん!」と学習の必要性を実感。トラちゃんを注意して観察すると、猫も色々な表情を見せる事が解ってきた。

嬉しい時は目を細めて、やっぱり嬉しそうな顔をするし、困った時は（夫が無理にお手をさせたりする）眉間にシワを寄せて、参ったなァという顔をする。嫌な時は目をキッとつり上げて睨み、「噛むぞ!」という気迫がちゃんと伝わって来るし、遊んで欲しい時の、何かに憑かれたようにランランと光る目は、ちょっと怖いぐらいだ。おかげでこの頃はガブリッと来る前に、こちらが手を引くタイミングを覚え、以前ほど引っ掻かれも噛ま

れもしなくなりましたが、トラちゃんの正式登録名は“くまのプーさん”に登場する、乱暴者の“Tigger”である。

ひどい家（たぶん）から逃げて（という事にする）来たトラちゃんだが、飼い猫だった証拠に、ものすごく行儀の良い面もあって驚いた。彼の寝場所のソファやベッド以外、高い所に上らないし、台所には私の居る時だけ入って来て、カウンターやテーブルには「くれーっ」と伸び上がる事はあっても、絶対に近寄らなかった。これは、トラちゃんの食事を用意したまま与えるのを忘れて出かけてしまい、帰って来て見たら、そのまま手（口）つかずでカウンターの上にあったので間違いない。大抵の時トラちゃんは、皿が置かれる場所にきちんとお座りして待ついい子である。

トラちゃんの食事は、今まで飢え気味だったので一度に大量に与えては良く無いと思い、ローストか茹でた鳥の胸肉、又は白身の魚（無い時はシーバの缶入）と、ピューリナワンのドライフードを少量、合わせて大きめのお猪口に一杯ぐらいを、一日四回与えた。元々大柄な猫だったので 5 キロ弱だった体重が一年で 6 キロに増え、スキニシップを兼ねて、毎日スリッカーでブラッシングしてあげたので毛も艶々となり、貧弱だった尻尾にも栄養が行き届いて、長く立派になった。

トラちゃんの方も、やっと見つけた居心地の良い家を、自分のテリトリーと決めたらしく、今度はこれを守るのに必至。以前には遊び仲間だった猫達と片っ端から喧嘩を始め、傷だらけになって帰って来る日が続いた。最初の頃はお尻の方に傷が多く、明らかに負け戦さだったが、次第に傷が頭の方へ移動（対等に正面から喧嘩できるようになった証）。この頃は家の庭に他の猫を全く見かけなくなり、コミュニケーション・トイレも終わって嬉しい限りだ。トラちゃんご苦労様です。

こうして、すっかり我が家を自分の住処としたトラちゃんは、メタボが異常に活発化？お猪口に一杯の食事では当然足りなくなり「もっとくれ！」と皿の前に居座ったり「ブニャンッ♪」とひっくり返ってお腹を見せる甘え作戦。私からはもう貰えないと判断するや、夫の居る方へ「ご飯くれーっ！」と走って行く二段攻めを駆使して、本当は三食にしたい回数は一向に減らない（貰える回数がインプットされている為、一回の量を増やしても、キッチンと四食催促するので悪循環している）。そのくせ体を擦り寄せて来る事も、ギュッと抱き締めさせてくれる事も絶対に無いので（寒い時だけベッドに上がって来て、私の背中にひっついて寝るくせに）、私達は単なるオートマティック・フードディスペンサーでしかないと、落ち込んでしまう。



貰ったご飯を綺麗に平らげると、トラちゃんは満足そうに目を細め、居間のだ真ん中まで行って、ぶっとくった腹を出してゴロンと横になり、前足を使って、口の周りから耳の後ろまで「くったーっ、くったーっ」と舐め回す。そして赤ん坊みたいに、前足をニギニギ伸ばしたり縮めたりして喉をゴロゴロ鳴らし、そのまま仰向けにひっくり返って眠ってしまい、幸せそうである。その姿を眺めて喜んで良いのか心配すべきか、真夜中のオヤツも入れると一日五食の体は、米を詰めるだけ詰め込んだ縞柄の俵のようになり、とうとう

7 キロに到達。雄猫らしく全体にガッシリしてきたけれど、小さい頭と短めの手足のため（胴が長く見える）、新種猫のマンチカンと見紛うほどだ。虫下しを飲ませてもらいに、三ヶ月毎に行く獣医さんや、旅行に出る時に預けて行くペットホテルの小母さんには“Big boy”と呼ばれて呆れられ、本当に摂食させなければと、夫と共に心を鬼にするこの頃である。

追記：トラちゃんのご飯はロイヤル・カニンのドライフード、“アペタイト・コントロール”に変わり、三食にすべく毎日が闘いの日々（夜中のオヤツ無し）。現在 6.3 キロに減ったが、元は野良だったトラちゃんの事、もっとご馳走を貰える他所のお家を見つけて、くら替えされるのではと心配している。





英国春秋歌壇

バロー典子

花の笑みたり

寒風の 吹いて荒れにし 翌朝に
淡きピンクの 寒桜咲きおり

つり花の 籠より水の 滴りて
見上げるわれに 花の笑みたり

生い茂る 枝の隙間の 青空を
呑み込みゆくや 万緑パワー

池に張る 網にかかりし ドラゴンフライ
放ちてやれば 2匹で飛べり

“地球は わがふるさと”と 帰りに来し
宇宙飛行士 言の葉ゆかし

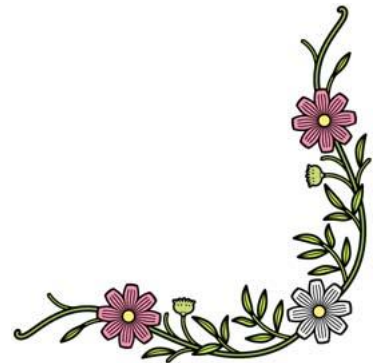
草原を 見えざる巨人 行くごとく
草なびかせて 風渡りたり

地下鉄を 自動椅子で ゆく彼女
パラリンピック 成功の街

震災の 御礼の言葉 碑に記せし
福島庭園 あじさい栄かゆ
創立5周年記念の日に

逝く人も 生まるる人も そのままに
満ちて静かな 自然のルール

待つことの 楽しみ知りぬ 日を数え
満ちて生まるる 孫を待つ日に



泥棒物語

小川のり子

「石川や 浜の真砂^{まさご}は尽くるとも 世に盗人の種は 尽くまじ」と大見栄を切ったのは、京都三条河原で釜煎りの刑にあった石川五右衛門。この五右衛門さんは歌舞伎、浄瑠璃、読本、落語などで活躍する大盗賊であるが、どうも実在の人でもあったらしい。しかし、「砂浜の砂が全てなくなってしまっても、この世に泥棒が居なくなることはない・・・」とは少々大袈裟過ぎる。特に近年の地球温暖化で、各地で“砂漠化”が始まっていると聞くから、その砂粒以上にどんどん泥棒の数が増えれば大変なことになりそう・・・と余計な心配はさておき、まずは本題に。



強盗、偷盗、盗賊、ゆすり、たかりと人様のお金を盗む職業を表す言葉の中で、“泥棒”と云うひびきには何となくユーモラスな色合いがあると思うのは私だけであろうか。近頃の強盗は盗んただけでは済まらずレイプ・殺人まで犯し、また手の込んだ悪質の詐欺やひったくりが後を絶たない。これからの話はその中で、少々愛嬌のある、盗んだ金を返した泥棒の話を書いてみることにする。勿論、実話である。

パレルモの泥棒

もうずいぶん昔の話になるが、イースター休暇を利用してシシリーはパレルモに数日滞在した。初日にショルダーバッグを肩に勇んでホテルを出発。ごみごみした迷路のような道を避けて、比較的人通りの少ない大通りを歩いていた時、一台のスクーターが速度を落として近づいてきた。道路際でそれをやり過ぎそうと立ち止まった瞬間、素早く肩のショルダーバックを引ったくられてしまった。その手際の良さはまるで神技の如し。お金はもちろん、パスポート、航空券すべてが入った命より大切なものが一瞬にして消滅。しばらく後を追ったが、すぐに迷路のような街中に消えてしまった。さあーそれからが一騒動。数分もしない間にその出来事を見ていた近所の女の人や子供達20人近くが私の周りを取り囲み、口々に騒ぎ立て始めた。中にはわざわざ椅子を持ち出し、悄然としている私に座れと命じる人や、コップに水を入れてきて一息付けと言う人など騒ぎはますますひどくなる一方。まるでお祭り騒ぎでもある。数語しか知らないイタリア語を操って、「Polizia! Polizia! Presto!」と叫んでみたが効果皆無。私は絶望のあまり椅子に座って頭を抱え込んでしまった。

しかし私の知らぬ間に状況はどんどんと進展。しばらくして一台の古い車が目前に止まり、まわりの人たちが私に乗れとジェスチャー。尻込みをする私をみて、赤ん坊を抱いた一人の若い母親が、「私も一緒に乗ってあげるから・・・」とこれまた手話の世界。しかしまわりにはそれに反対する人もいたらしく、2手にわかれて「乗れ、乗るな」と口論まではじまる始末。それを見ていて、もうどうしても良くなった私は、雰囲気からして「まさか売り飛ばされることもあるまい」と、そのビートルに乗車。5分ほどよたよたと走った車が、あまり大きくない広場の真ん中に停車。しばらく待っていると若い男の子が車に近づいてきた。なんと私のショルダーを下げていないではないか。その時から私は俄然元気が出てきた。そのショルダーを彼の手から引っ手繰るようにとり、中身を調べると、パスポート、航空券はあるが、現金はなかった。



意気付いた私は、英語と日本語と身振り手振り宜しく、「日本からはるばるやって来たこの女の子が、可哀想にお金もなしにこれから1週間どうして暮して行けるの・・・」とかなんとか切々と訴えた。その男の子と運転していた男がしばらく何かを相談していたが、そのうち男の子がどこかに消えてしまった。そしてしばらくして別の男の子が数枚の10ポンド紙幣をもっても戻ってきた。イタリアン・リラや日本円、そしてあと数枚のポンド紙幣には再び会うことはなかったが。私はどうもスリの巣窟に飛び込み、その巣窟の中でも、人情のある人々に助けてもらったらしい。まるで「長屋の助さん物語」である。

まだ色々と話が続くのだがこの後の、警察署での話に移す。彼らとの別れ際、車のナンバーを素早く書き止め、警察署に飛び込んだのだが、どのポリスもともに私の話を聞いてくれない。それどころか、若いポリスは伊英辞典を持ち出してきて、「今夜 ダンスに行かない？」と誘いかける始末。その後警察からの電話で駆けつけて来たイギリス人のガイドと警察本部に出向いたが、そこは同じようなひったくりやスリに出会った外人観光客の長い行列。我々はそれを見て途中で報告するのを諦めて、ホテルにも戻った。私の前に並んでいたドイツ婦人は、親子3人のパスポート、数百のドイツマルクの入ったバッグをひったくられ、その際突き飛ばされて、膝を大きくすりむいたと、涙ながらに語っていた。その後、私の事件を伝え聞いたツアー仲間から、「あなたはラッキーだった、ラッキーだった」と云われたが、こんな目に遭って何が好運かと憤懣やるかたない思いでもあった。

もう一つの話は、タイムズの記事(26/05/2001)からだが、原文を会話風にアレンジしてみた。

パリの泥棒

「スーザン、パリで会議があるから来週出かけるよ」

「あら、パリ素敵ね！ 免税で今度はシャネルのバッグを買ってきてね」

との会話があったのは10日前。その会議も今日で終わり、明日は夫の帰英予定日。久しぶりの彼の顔とシャネルの顔を楽しみにウキウキしているその最中に電話のベルがけたたましくなり、一瞬ドッキとする。夫からの電話で、彼のブリーフケース、その中には旅券、航空券、現金500ポンド、携帯、住所録等が入っていた、がホテルの会議場から消え失せたとの報告。勿論誰かに盗まれたにちがいない。電話の向こうですっかりしよげきった彼を責めることも出来ず、「まあ、元気を出して！」と励ましてみたものの、どうもシャネルのバックはそう簡単に諦めきれない。ましてやパスポート再発行には時間もかかる。あれこれ悩んでいるうちに、彼女に一つの名案が浮かんできた。全く自信はないがとにかく「やってみよう」と本棚からフランス語の辞書をひっぱり出した。自分のフランス語はお粗末極まるOレベルでグレードC、それももう16年以上も前の話である。ドキドキしながら、盗まれた夫の携帯番号をキーボードに打ち込む。発信音が数度なったあと誰かが確かに受信した。

「Allo, Allo Je suis Suzan. Bon soir, monsieur. Comment allez vous? 」

と一気にまくしたてた。云った後で「ご機嫌いかが」とは言い過ぎかとも思ったが、相手が電話に出たこと自体が驚きだったので、礼儀正しいのも悪くないと自身に云い聞かせる。相手は無言だが、だからといって電話を切る気配もなさそう。そこで彼女は何度も詰まりながら、

「あんた今日 xx ホテルから黒革のブリーフケースをお持ち帰りになっただろう。いやいやこれは決して怒りの電話ではないよ。中味は全部差し上げるけど、パスポート、航空券、住所録だけは何とか返してくれよ」

と2人称と3人称の混濁した自分でも珍妙としか思えないフランス語で思いを伝えた。しばらく電話の向こうでは返答がなかったが、やがて

「事情は大変良くわかりました。貴女のご主人はさぞお困りのことでしょう。それではお言葉に甘え、現金は頂かせてもらいましょう。が後のすべてはお返しますから、xx ホテルの裏通りにあるごみ箱の上にそのケースを乗せて置きますので、今から1時間後に取りに来てください」

と丁寧なフランス語が返ってきた。この返答に驚いたのはそう願ったはずのスーザン本人である。

「有難う、あんたは本当にいいやつなのですね」

と返事したかどうかは知らないが、受話器を置くのももどかしく、パリの夫に事の成り行きを報告。そして1時間後に彼は自分のケースをごみ箱の上から無事回収、その中にはくだんの携帯もきちんと収まっていたとのこと。で、めでたし、めでたし、でこの話は終わる。

このスーザンの機転の効いた行動には大いに賛辞を送りたいが、この泥棒君、中々乙なことをしてくれると、彼にも小賛辞を送りたい。



英国春秋俳壇

矩子クーパー

秋 灯

高らかなさえずり聞けば応えたり

優しさを保てぬ日なり春の闇

弟を想えり桃は雨に散る

放哉忌くどき指図を払いのけ

不意打ちの春雷よぎる夕まぐれ

日焼けしてオイル補給す手に脚に

交友もむつかしきかな風の色

秋灯それぞれ異なる暮らしぶり

きざはし
階に萩のゆれ居る里帰り

妹の肩抱き別れ今朝の秋



英国春秋俳壇

俳句同好会

秋に寄せ

秋風に木蓮一花狂い咲き

悦子キング

日の短か朝な夕なの秋の風

日出美バンダースケイフ

前庭の花の香はこぶ秋の風

田口邦子

餌を喰みてかわらけ打つ鈴秋の声

康子ロケット

秋風に乗って来たらし仔狐よ

藤原さかえ

秋風や衣選びに明け暮れる

福重久子

嬉々として氷持つ孫夏真昼

葉子デニヤ

秋風に夏の思い出遅れ知る

上田陽子

秋風が吹いて染めゆく木々の色

小野宣美

二人して出かけし夜の無月かな

西脇優子

秋風に舞ひ発つ鴨の長き旅

松尾美和子

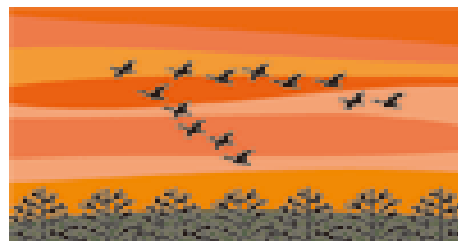
秋日和すゝきの穂先輝きて

千津子ウインター

秋風が吹く朝訃報友は逝き

藤田幸子

この会も始まってから
四年半たちまして
現在メンバーも十四名となり、
熱心な皆様の姿勢に
励まされております



英国春秋俳壇

エリオットつや子

夏帽子



春暁や電話のベルに起こされて

君子らん猫身ずくろい手足なめ

母の日やかなたに母をそっと呼び

カサブランカ花粉手につけ服につけ

朝明けやきつね親子の草相撲

わが猫は喜雨にそばぬれ朝帰り

テーブルにもひとつ白い夏帽子

緑陰の草に休めり乳母車

雷を恐れた父ももういない

葉を洗う夕立ふるふる縦にふる



故西内夏子先輩を偲んで

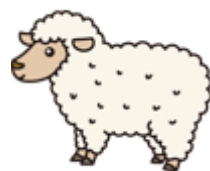
バロー典子

私が英国日本人会（JA）に入会しましたきっかけは、国学院大学の先輩が日本人会で俳句と短歌の指導をしていると聞いたからでした。彼女に会うために初めて紅葉会に出席しました。その方が西内夏子先生でした。国文学に造詣が深く、ご専門の樋口一葉の研究は俳句、短歌と共に、先生のライフワークでした。大学卒業後、詩人として活躍された時期もありましたが、結婚された後には、俳句専門の出版社に長く働かれ、知識と経験を積まれた後に、一人娘さんの嫁ぎ先である英国に来られ、日本人会などで俳句や短歌を教えられるようになられました。先生は広い分野での知識のみならず、多くの有名な、詩人、俳人との交流もされましたので、そのご見識には深みと厚み何とも言えぬ幅があり、お会いする度に尊敬が深まってゆきました。

私は俳句より、どちらかと言えば、短歌の方が好きでしたが、英国日本人会（主に紅葉会）の皆様とご一緒にまず俳句を作るところからはじめました。最初の頃に作った俳句に

“ 子羊や 親の白より まだ白し ”

があります。この一句は理由あって、忘れられない句となりました。私は英国の田舎の風景をととても好きでした。中でも広々と広がる緑の丘陵に点在する白い羊の姿ほど英国的なものはないと思い、その景色が特に気に入っていました。春になると、そこには子羊が生まれ、その小さな姿は愛らしく、近づいて見ると子羊たちの毛は柔らかく汚れを知らず真っ白で、その白さは親の白よりも一層白く見えました。私はその姿を俳句にしました。私はその時は自分でも感動して作ったのでよい俳句のように思っていました。（今はそうは思いませんが、）西内夏子先生はそれを「皆様の前で発表しなさい」と言われました。私は素直にそうしました。そしたら、そこにいらっしゃった壮年の方のおひとりが、「黒い羊もあるよ」と言われ、場はどっと笑いに包まれて、私は困ったように黙って立っていました。実際、英国には黒い羊はいますが、その頃私はまだそれを知らずにおりました。その方は勿論、冷やかすつもりではなく、自然にそう思って、すぐに教えてくれたのに違いありません。そんなこともあり、もともと読む俳句は好きでしたが、つくる場合になると自分はやっぱり俳句より、短歌の方が合うのかも知れないと思いました。



実際に、それ以来、以前から好きであった短歌の方をより励むようになりました。その後、数か月経った頃だったでしょうか、私は、初めてバーリングハム クラブに親しい友人に誘われて行きました。楽しいランチの後でクラブの広い庭を4人で散策致しました。その散策ももう終わりに近づき、日暮れが近くなった頃、ふと横を見ると川が見えました。その表面が夕陽を浴びて、きつらと光ったのが目に入りました。私はそれを見て、思わず「この川は何という川？」と尋ねました。後で思えば、質問する方がおかしいような問いなのですが、友は「テムズ川よ」とすぐに応えてくれました。

“ 散策の 庭のはづれに ふと見えし テムズ川の 川面の光 ”

はその折につくった短歌です。

夏子先生は、それを読んで褒めて下さり、次の会の折に、「皆様の前でこの短歌を読みなさい」とおっしゃいました。そして、私がある短歌を皆様にお伝えする前に、先生は「この短歌は完璧な出来栄です」とはっきりおっしゃられました。皆様はそんなものかと、とにかく、静かに聞かれておられました。先生は前回、私が俳句のことで、たまたま笑われたことを覚えておられて、面目が立つようにと考えられて、皆様の前でわざわざそうおっしゃられたのでしょうか、今は改めてそのお心の内をお聞きすることは出来ませんが、私はその折に思いがけず褒めて頂いて、単純にもすっかり自信を取り戻し、以来、自然の美しさや物事に感動する度に、楽しんで短歌をつくるようになりました。そうして観るイギリスの自然は素晴らしく、気づく度にいつも私に新鮮な驚きと喜びを私にくれました。それらの短歌をまた先生に聴いて頂きましたが、あの時の様に手放しでほめて頂いたことはありませんでした。やはり、先生は私を励ます為におっしゃって下さったことと思いましたが、感謝で胸がいっぱいになりました。師としてきりっとされていていらっしゃる内にも、そうした繊細な優しいお心をもたれた先生でした。

このふたつの俳句と短歌はこうした思い出と共に忘れがたく、折りに触れて思い出す度に、今は亡きわが短歌の師西内夏子先生の懐かしい面影が甦って参るのでございます。

先生は最晩年は目をご不自由になられて、紅葉会には出られなくなりました。私は先生のチーム（Cheam）のご自宅にまで伺って、教えて頂きました仲間のひとりです。そのお仲間のひとりに現在、英国日本人会で「俳句を学ぶ会」の中心をされておられるクーパー矩子さんがいらっしゃいます。クーパーさんは俳句を長く学ばれ、ご自分の俳句の本も出されました。

今回の『英国春秋』は会の 20 周年の記念誌でもあることとお聞きしまして、先生が亡くなられて 7 年目の今年、かつて紅葉会で俳句、短歌を指導して活躍しておられましたわれらの師西内夏子先生のお姿を懐かしく思い出し、感謝と共に記させて頂きました。



「英国春秋」 1999 年春季号より
山本夏子（西内）「俳句について」の抜粋文

（三）季語・季題（同じ意味です）

私達は日常の会話の中で、毎日のように季語の言葉を使っています。

「お寒いですね」「桜が散り始めましたね」と言った挨拶、また手紙の書き出しには「風薫る五月になりました」「秋雨が降る季節になりました」とか如何に季節の言葉が日常の中に沢山使われているかに驚かされます。「俳句は季語を詠ずる文学なり」と高浜虚子は言っています。日本ほどデリケートな季節の移り変わりはイギリスにはありませんが、春になれば明るい陽が射し、秋になれば落葉が散ります。俳句は季語を必ず使い、自然を、そして自然を通して人間の心を詠む文学です。

句を作りたいと思っても言葉が見つからない時、便利な事に「歳時記」という四季の風物辞典があります。俳人達はこの辞典を使用して句を作っておられます。しかし、歳時記が無くても俳句は作れます。身近な事を題材に季節の言葉を入れて是非一句作ってみてください。こんな楽しい句もあるので

つばめつばめ泥の好きな燕かな

細見綾子

2017年夏・一期一会

渡邊道英

誰が命名したのか『後期高齢者』恐らく無神経極まりない高級官僚の考えそうなことだ！

私も6月の誕生日で76歳に到達しました。堂々とした『後期高齢者』の仲間入りです。

トラック競技に例えればまさに4コーナーを回って、ホームストレッチに入り人生のゴールに向かって真っしぐらといったところでしょうか！？

最近私の思考態度は従来とはすっかり変わってきました。これまでは調査、研究、熟慮して発言したり、文筆活動をして来ましたが、現在只今は『思ったことを素直に 且つストレートに表現する』ことにしています。何故かなら、人生古希（70歳）を迎えた頃から浅学無知は覚悟で、これまでに学んで来たこと、実体験してきたことをベースに、発言し、行動することに決しました。

殊に若い世代に伝達したい時は、自らの哲学思考態度を簡潔、明解、率直に述べることにしています。人生のゴールを目前にして、遠慮会釈なしに後輩たちに「言い切る」ことが重要と考えたからです。

あの茶人で、天下人「秀吉」のご意見番の『利休翁』が、天下国家のあるべき姿を「茶道」を通じて進言した結果、切腹をさせられたことはあまりにも有名な話です。



また武家達が重んじ、武人の最高の嗜みとされたものに「能狂言」あります。その道を開いた世阿弥が著した「風姿花伝」の中に、理想的な日本人の精神のあり方が示されています。

今は亡き、富士写真フイルムの尊敬していた先輩（次期社長としてデュッセルドルフの責任者から本社に帰ったばかりの人で、総会屋に暗殺されてしまった）が、教えてくれた『世阿弥』の精神。舞台に出演する際、必ず一度羽織りを「衣桁（衣紋掛け）」にかけ心を込めた上で改めて着衣し舞台上がったとの事。これを例えに、チェーンラボの従業員に《通勤着から作業着に着替え、製品を作る現場（「舞台」）に向かう時、緊張感を持って真摯に立ち向かって欲しい》との訓辞の内容でした。

これは当時、経団連及び日経連の呼びかけで、日本企業が米国から導入した「QC活動」（高品質活動）を日本全国の製造現場に展開中、富士グループでも関係会社100数社の全国展開することになって、その決起大会での挨拶の趣旨でした。

●アメリカで生まれた「QC運動」が日本で開花

ところで、此の所アメリカのトランプ大統領の発言が話題になっています。父親から譲られた不動産を基盤にニューヨークを中心に巨額のプロパティを有する『不動産王』とのこと。確かに経営者としての才能は人並み以上のものがあるのでしょうか？しかしながら、自らの国が生産する自動車ははじめ品質の

悪い製品を関係国に売りつけるなどもってのほかである。computer や Airplane のように最高級な製品、大規模な設備でしか製造できない製品は独占に近いものがある。しかしながら嘗てのアメ車の勢いは無く、ドイツや日本製の自動車に圧倒され「Ford車」の看板のみが見られる程度。



何故こんなことになったのか、其れは嘗てアメリカでは「金曜日と月曜日に組み立てられた自動車は買うな！」という風評が広がった由。つまり金曜日は翌日からの休日、心そこにあらず、流れ作業中ボルトの締め忘れが多かった。又月曜日は楽しかった休日のことを思い出しては基本どうりの作業を忘れてしまい欠陥車が堂々と市場に出荷されていたとのこと。

こうした製造工程の欠陥を無くするため考え出されたのが製造現場でのQC(高品質活動)運動の取り組みでした。しかしながらアメリカでは十分に活用されず、むしろ日本で定着し、あらゆる産業に浸透しました。《決められたことは守り、継続する》は日本人の特技とも言え、製造現場で今日も活かされています。今や世界一高品質の製品を作る国として、認知され尊敬されています。

●労働組合活動と社員会制度

私は大学を卒業して即、映画会社に勤務することになり大映京都撮影所の社員助監督として採用されました。勿論社員は同時に大映労働組合員と言うことにもなります。いわゆる「Open」では無く

「Close」なのです。つまり日本の労働組合は企業内労働組合であって、「社員」即「組合員」と言うことになります。これに対し、英国ははじめ欧米は「産業別労働組合」であり、一つの会社のみならず横への広がりを持つ大変大きな組織となります。例えば「家庭電機商品を製造販売」する企業は「電機労連」として、例えば Sony も Hitachi、Mitsubishi、National 全てが個々の会社の組合員であるとともに電機産業全体が組織する組合に所属することになります。英国の労働組合は強力でストライキも日常的で、しかも長時間にわたって行われています。良し悪しは別として、英国ははじめ西欧諸国では民主主義が徹底されている証でしょう。

強力な権力を持つ経営者側に対し、弱者である労働者は自らの権利を守れない。為に労働組合法で労働者を救済するための方策として、団体交渉権とそれを有利に運ぶストライキ権を認めたのです。



丁度私どもが大学を卒業した昭和40年（1965）から大阪万博（昭和45年）の頃、更には

昭和50年（1975）以降は、日本企業が世界へ進出し目覚ましい活躍をした時代でした。まさに戦後の経済成長、超躍進時代。まさしく日本経済は昇り竜の如しでした。一方国鉄の労働組合のストライキを筆頭に、大手労働組合が経営者側（経

団連、日経連）と正面衝突。ゼネストが繰り返され動脈である鉄道網が分断される始末。新宿駅から会社が用意したトラックに乗り換え、本社に行ったことを思い出します。「やりすぎだ」「組合は会社を潰す」など無理解な世論もあり、その結果経営者側と日本政府の思ふ壺となって、日本の労働組合は分裂し、弱体化して行きます。今や日本の労働組合は「換骨奪胎」。魂をなくした「形だけの組織」になってしまいました。

1970年夏映画界最大の不況が到来、大映も倒産の憂き目に合いました。止む無く私達も再就職活動を開始。職を求めTV産業始めTOP企業の門を叩きました。困難な時代でした。

個人的には幸運なことに中途採用試験で合格、新たな会社に採用されました。給与も含めた労働条件は天と地ほど相違していました。折から写真業界はモノクロからカラー時代の到来で、KODAK、AGUFA、イルフオード、小西六、オリエンタル、そして私ども富士カラーなど感材メーカー間の猛烈な競争と繁栄がありました。日本では大阪万博（1970）を機に急成長。映画界では想像もできないほどに毎年毎年30パーセント以上の昇給があって、多忙ではあったが働きがいもありました。

「岩戸景気」「神武景気」などと呼ばれの日本経済の興隆期となり、労使関係も変化していきました。殊に経営者側（日経連）からの提案で、従来の「組合組織」から「社員会組織」に移行する運動が高まりました。英国ははじめ西欧の労使関係は本当の資本家が存在するが、日本国には明治維新以降多少の資本を有する人は居たが膨大な不動産や莫大な資産を持った経営者は存在していなかった。実際問題として、当時の経営TOPの給与と一般社員の給与の差が、せいぜい数十倍程度であって、経営者即資本家とは言えず「労資問題」とは言えない。今後は不毛の労働争議を引き起こさないで、経営者側と労働者側が手を携え自らの企業の繁栄に邁進することになった。

1970年以降、大手企業は労働組合の上部団体（例えば化合労連、電機労連、映演総連）からの脱退を勧め、自社に社員会制度を導入した。毎月経営者と社員会のTOPによる「経営会議」を実施、労働条件、賃金問題も平和裡に解決した。さらに自社株を持たせ（持株制度）社員会を包み込んで行った。従業員をイコールパートナーとして、企業経営に好結果をもたらせた施策としては大成功であった。しかしながら、その結果は経営者側のfreehandになって、目先だけの日本企業の繁栄に寄与したことは事実です。一方では現在のような体たらくな日本的労使関係のもと、労働条件が悪化、長時間と低賃金に甘んじているようです。勢いのある企業ほど正社員が減少し、パート、フリーターが増大。最近大きな社会問題化した広告業界最大の企業「電通」の過労による新人女子社員自殺事件、日本経済繁栄の裏側に横たわる陰の部分に、暗澹たる思いを抱くのは私だけではありませんまい！？

●今は亡き諸先輩が残された教えと言辞

学生時代及び社会人になって教わった事は沢山ありますが、私にとってこれだけは若い世代に残したいと思える名言を2～3点取り上げておきたい。

まず最初に、大学の恩師「澤柳大五郎教授」の教え、『4年間に専門分野を研究しマスターすることなど不可能に近い』（大学で学ぶことなど出来ない！？）『せめて大学4年間に学んで欲しいことは、目的に

応じその解決策を志向する際、自らの引き出しを数多く作っておき、どの引き出しを開ければ何が解けると言った知識だけは身につけて欲しい』

大映京都撮影の倒産を機に転職した「フジカラー販売株式会社」の最高責任者で上郡 卓（常務専務社長会長）CEO の秘書を務めたことがありました。面接の時に「労働組合の委員長が務まるような人物は人を束ね引っ張る力がある、どんな世界でも活躍できる」と言って、60人くらいが応募していた中からこの私を抜擢してくれました。研修期間が終わると本社の秘書室に配属され全国から来られたフジカラー現像所のオーナーや経営者に次々と面接の機会を得た。このことが営業第一戦に配属された時大変な効果を発揮することになりました。殊に東北6県を掌握した仙台営業所所長に赴任した6年間は上郡会長から学んだことがどれほど役立ったことか！要は『人間一人では何もできない、多くの人を掌握しスタッフは元より取引先（お客様）も合わせてのトータルなマーケット活動こそが大切』



さて、営業所から東京本社マーケティング部に配属された折、全国のセールスマンを集めての研修会を実施した際講師としてお招きした『明光商会』の創業者高木社長は「馬鹿な奴ほど商売が上手い」

（高木社長執筆の当時ベストセラーのビジネス Book）と題して、講演をして下さいました。

東京都庁の新館が新宿副都心に完成した折、地下に特製で超ビッグな『明光シュレッダー』が納入され現在も機密書類の裁断が行われています。その現場にもご案内してくれました。

「製品の価値はユーザーが使って頂いて初めて判ること。人のつながりこそ大切」と強調されましたが、その高木社長は数年前に鬼籍に入られました。私のような若造を長男英治君の挙式にまで列席させてくださったり（新郎側の主賓に内閣総理大臣の中曽根康弘、新婦側から東急グループの総帥五島登と政界経済界のお歴々で一杯でした）息子さんの英治君の仲間の一人に私を選んでくださったことに感謝しています。埼玉県大宮市に開設した「日本盆栽美術館」が海外からの愛好者で一杯とのこと。当時伊豆半島はじめ数カ所の候補地を取り上げ構想を練っておられました。徳川家が持っている国宝や重要文化財の盆栽も預かり、保存活動とメンテナンス技術の向上と要員の教育を実行されています。



英国春秋つれづれに

また一つ天界に星がふえました。しばらく闘病生活を続けておられた園田邦夫さんが、去る9月13日天上への旅立ちの途につかれました。

英国日本人会の会員としてほぼ20年間を我々と共に歩んで頂いた、まさに^{ゴールド}黄金会員。紅葉会の部長、ヘンドン墓地での祈祷、メンバーへの公私にわたるアドバイス等、時にはその苦言、箴言に頭を痛めたこともありましたが、今ではそれさえが懐かしい思い出となって、蘇ってくるようです。本当にいろいろと有難うございました。多くの親しい方々に見送られての旅立ち、どうぞかの地ではお元気でお過ごしくださいますように。それではまたお目にかかれる日まで、さようなら。（小川）

* * * * *

園田さんのご逝去の訃報を萩原小百合ちゃんから聞いた時、何故か天を仰いだ。あの優しい園田さんの笑顔が天空に浮かんでいた。親友が生産した日本製のカボチャ（南瓜）を甘めに煮て持参したのがお別れとなってしまった。約束を守れたことに感謝しつつ、奥様のことに触れられたお言葉が耳を離れない。『何の感動もなく機械的に活かされている妻を思うと疑問を感じます』と訴えるように私を見つめた園田さんの優しくも真剣な眼が脳裏を離れない。合掌（渡邊）

『英国春秋』 2017 年秋号 (No 31)

編集人 小川のり子
発行人 佐野圭作
発行所 英国日本人会
事務局 c/o JEIB
3 London Wall Buildings
London EC2M 5PD
原稿の送り先 ogawa@japanassociation.org.uk or
Mrs M Hodgson 492 Canterbury Way, Herts SG1
4ED